

伊勢湾台風、防災施設エクスカーショントリプル「木曾三川にみる治水の歴史と伊勢湾台風」

エクスカーションは、地域の歴史や社会資本施設、自然、地域の姿にふれながら、ガイドの説明を聞き学習を深めていく、地域体験型学習の一環として行っているものです。

今回は、桑名市から木曾、長良、揖斐川の流域にある、治水神社、船頭平閘門、高須輪中排水機場のほか、鍋田水防住宅など伊勢湾台風に関わる施設を訪ねる体験をしました。

江戸時代に多くの犠牲者を出して行われた薩摩藩による河川改修工事、明治時代にオランダ人技師ヨハネス・デ・レーケによって行われた治水工事の現地、輪中生活を体験できる施設等を体験場所に選定しました。

当日は、「桑名市歴史の案内人」のみなさんにガイドになって貰い、現地とガイドによる説明のおかげで分かりやすい学習体験の場となりました。

また、「輪中の郷」では「のりすきを」体験など珍しいことにも挑戦しました。

にちじ	平成20年11月29日	(土)
参加者	39名	(木曾三川沿川地域 一般の皆様)

行程

桑名駅(集合) → 治水神社 → 高須輪中排水機場 → 船頭平閘門 → 輪中の郷(のりすき体験) → 八鶏防災拠点 → 松陰記念碑 → 鍋田水防住宅 → 住吉神社・七里の渡し → 桑名駅(解散)



治水神社



船頭平閘門



輪中の郷(のりすき体験)